

## ミクロネシア連邦の小島社会におけるデング熱媒介蚊の対策 1. 蚊幼虫の発生源調査

○野田伸一<sup>1)</sup>・長嶋俊介<sup>1)</sup>・山本宗立<sup>1)</sup>・西村 知<sup>2)</sup>・川西基博<sup>3)</sup> (1)鹿児島大学国際島嶼教育研究センター、2)鹿児島大大学法文学部、3)鹿児島大学教育学部)

Control of dengue fever vector mosquitoes in small society of Federated States of Micronesia. Noda, S., Nagashima, S., Yamamoto, S., Nishimura, S. and Kawanishi, M.

演者らは、これまでミクロネシア連邦4州で蚊の分布調査を実施してきた。昨年ミクロネシア連邦ヤップ州や隣接するマーシャルやパラオでデング熱の流行が報告され、ヤップ州では今年も患者が発生している。このような状況から、ミクロネシア連邦ではヤップ州以外の3州でもデング熱の流行が危惧されている。十分な医療対応ができない離島ではデング熱の流行に備えて媒介蚊の発生源の除去に努め、蚊の個体数を低いレベルにしておくことが重要である。小島では蚊の生息域の把握が容易であることから、ポンペイ州のピングセラップ島とチュック州のピス島で地域社会を主体とした蚊対策を実施することにした。これまでの調査で、ピングセラップ島には *Aedes aegypti*、ピス島には *Aedes hensilli* (ヤップ島でのデング熱媒介種) の分布が確認されている。両島で蚊幼虫の発生源の分布調査を実施し、蚊の発生容器の除去を実施した。また、生活用水のためのコンクリートタンクなどには魚を入れることにした。同時に住民を対象にデング熱に関する説明会を開催した。説明会ではパンフレット配布やDVD上映などを行い、蚊対策の重要性を説明し、対策の実施を促した。